

次の課題の詩(1)を解釈し、自分なりに、その詩を語る主人公を設定して演じなさい。  
続いて、主人公の心境に一番あった歌(2)を、即興で振り付け歌いなさい。

(1) 主人公 一本の木のなかに

まだない一本の木があつて

その梢がいま

風にふるえている。

一枚の青空のなかに

まだない一枚の青空があつて

その地平をいま

一羽の鳥が突っ切っていく。

一つの肉体のなかに

まだない一つの肉体があつて

その宮がいま

新しい血を溜めている。

一つの街のなかに

まだない一つの街があつて

その広場がいま

わたしの行く手で揺れている。

(2) 設定した主人公の、心境に一番あった歌を、即興で振り付け歌う。(歌は即興の曲でも既成の曲でも可とする)

「木」 高良留美子

——詩集『見えない地面の上で』より